

Q:留学について夫やご両親の反応はどうでしたか？



私の両親は娘のおてんばさにただただ呆^{あき}れていました。夫の両親に反対されるのではないかと不安でしたが、それどころか、「二人で決めたことなら・・・」と認めてくれました。そのときに義父が言ってくれた**“せっかく出て来た芽（英語をもっと学びたいという熱意）をつぶすわけにはいかないな”**というあたたかい言葉がとても心に響きました。賛成してくれた人に私のことを誇りに思ってもらいたい。「ただ楽しかっただけでは日本に帰れない、何かつまないと！」と留学中はそればかり思い、またそれが支えになって、後悔することなく精一杯勉強できましたと思います。

夫から

彼女は頑張りやで根性のある人。いつも一生懸命で感心しています。結婚後、留学したいと言われた時は**“まさか、何を言うてんねん”**と思いました。それから、仕事の後や休日も勉強している姿を見て、本気だと感じました。さらに検定テストで予期せぬ好結果が出て喜んで顔をみたら、現地でも心いくまで頑張ってきてほしいという思いが生まれ、最後は根負けです。（笑）

自分の好きな事を続けるためには、周りの理解や協力が必要ですね。お互いが励まし合い、高め合える家族は素敵だなと思いました。

夢を実現するにはエネルギーがいります。ましてや、夫や妻、子どもなどの家族がいれば、好きな事ややりたい事を断念せざるをえないときの方が多いかもしれません。でも、希望や夢は持ち続けたいものです。いつか少しでもそれに近づけるように、生きがい育てたい！！そう思ったインタビューでした。

(Kero mom.)

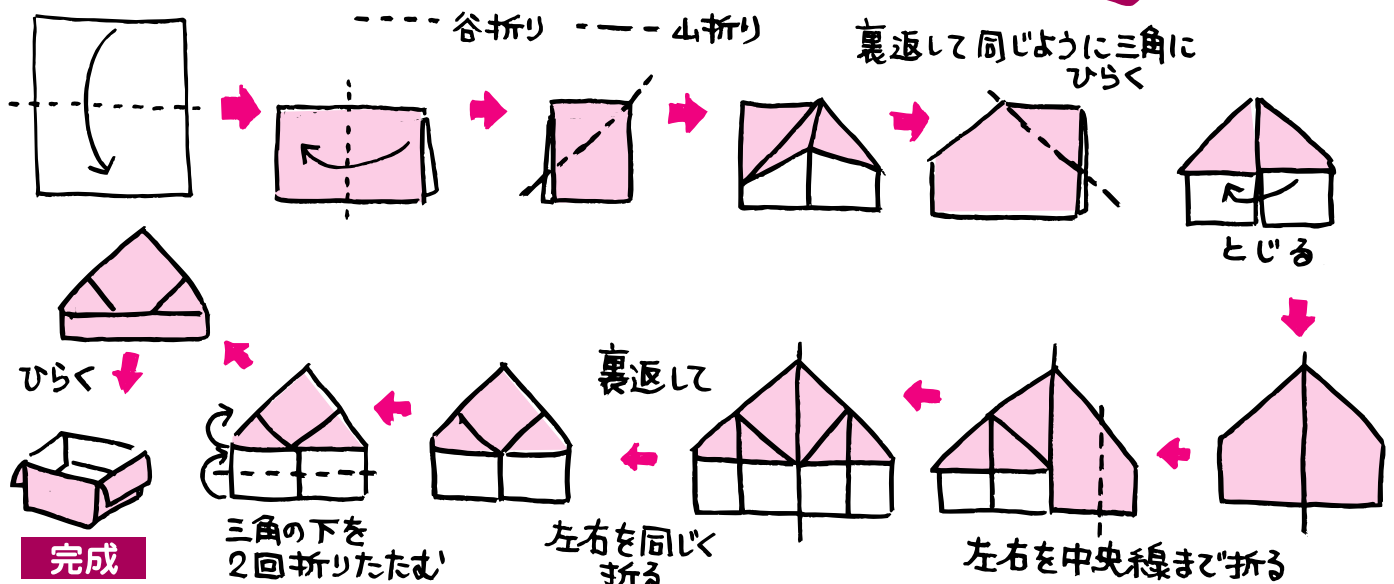
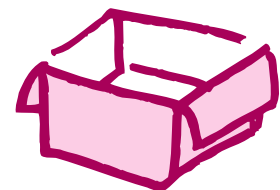


子どもたちのお菓子入れに使ったり、野菜クズを入れたり、なにかと大活躍！子どもと一緒に作ってみてください。

ツルツルした紙質のものは水分を含むと貼り付くので、新聞紙のようなタイプの紙質のほうが適しています。

チラシや新聞で作ってみよう！

～「箱」～



私はこう思います

～読者の方からの日々の暮らしの中のちょっとした疑問について、アンケートを実施しました。～

1 男の子が髪飾りや着せ替え人形をほしがったり、女の子がミニカーをほしがったりしたとき、皆さんはどうしていますか？

与える

圧倒的多数でした♪

- ☆ 色あわせの勉強になると思う。
- ☆ センスが良くなって将来ファッション関係の道に進むかも。ミニカーを欲しがる女の子も、整備士やレーサーになるかも。
- ☆ 男女問わず誰とでも遊べるようになって、遊びの幅も広がると思う。
- ☆ 幼稚園、小学校低学年までは与えてみるが、高学年になっても続くようなら性同一性障害を視野に入れてよく話を聞いてみる。
- ☆ 知人にお下がりを頂く。



この意見も多かったです♪
男の子のほうが制約が多いのかも…。

与えない



- ☆ 否定するとムキになるので、他のものに興味が移るようにさりげなく働きかける。
- ☆ 「また今度ね」と軽く流し、あきらめるのを待つ。
- ☆ あるべき姿に戻す。

▲ どんな姿？強いこだわりを感じる…

その他

- ☆ 異性の友達に貸してもらって、よく遊んでいるようなら買うかも。
- ☆ 少し先の、クリスマスや誕生日に買ってあげると言っておいて、その時になっても欲しがれば買う。
- ☆ 女の子のミニカーなどは抵抗がないけど、男の子に着せ替え人形は買わない。

2 まだ幼稚園に行っていない息子が同年代の子どもたちと遊んでいるときに、よく物の取り合いになります。そのとき、男の子同士のトラブルはしばらく見守るのですが、女の子を叩いて泣かせると、きつく叱ってしまいます。

- ☆ 「男の子だから」「女の子を」叩いてはいけない、のではなく、性別に関わらず、叩くことはいけないことだと話す。だから、男同士でも、女の子が男の子を叩いた場合も同じように話す。
- ☆ 年齢にもよるが、女の子は男の子より力が弱いことを話す。
- ☆ 言葉の暴力もあると思うので、一概には言えない。
- ☆ たとえ幼児だろうが、男同士の喧嘩には寛容でも、相手が女の子だと、周りから非常に厳しい批判を受けると思う。男の子を叩くことも良くないことだと分かっているが、つい他人の目を意識してしまって「女の子に手を挙げてはいけない」と言ってしまう。

「性別で分け隔てた問いが私にはとても悲しく感じました。その子に向けた興味があります。その子を個として認めてやるのが大切じゃないですか？——」30代のお母さんのあふれる思いが、回答にびっしりと綴られていました。このお母さんがおっしゃるように「性別でくくってしまう考え方に疑問を抱くことから、身近にあるジェンダーについて考えるきっかけになればうれしく思います。人の考えはそれぞれに違いますが、時代や環境に大きく影響を受けていると感じます。ほんの些細な言動に悩んだり傷ついたりしている日常も、また現実ですよね。身にまとった「縛り」から少し自由になって、自分の心の声と対話してみることからはじめませんか？

アンケートを通じてさまざまな方のご意見に接することによって、新しい発見や驚きがありました。ご協力ありがとうございました。

(Sashimi mom.)



*ジェンダー 社会的、文化的につくられた性別のことで、それぞれの性にふさわしいとされる思考や行動・態度のことをいい、生物学的な性別（セックス）と区別して用いられます。

2006いこま女と男You&Iフェスタ

野田淳子トーク&コンサート「金子みすゞの世界を歌う」

6月24日(土) 生駒市コミュニティセンター 文化ホールにて



透明で力強い歌声

<野田淳子さんからの心に響くメッセージ>

短い生涯に512編の詩を残した金子みすゞさん。女性に選挙権も親権もない時代に苦しんだ彼女の詩はせつないけれど、他人を恨まず清らかな心で生きていきたいという願いを感じます。

私にできるのは亡くなった人が残した“想い”を歌い続けていくこと。一ちっぽけでも、世界にひとつしかないかけがえのない“いのち”を大切に—

一緒に歌おうという野田さんの呼びかけに観客が応じて、会場全体が一体感に包まれました。私たちの歌声はみすゞさんに届いたのでしょうか。言葉だけでは伝わらない、音楽の持つ力を改めて感じました。
(Saru mom.)



金子みすゞ (本名 テル)

- 1903 (明治36) 年 山口県の漁港、大津郡仙崎村 (今の長門市) で生まれました。成績は優秀、おとなしく読書が好きで、誰にでも優しい人であったといひます。
- 20歳の頃、童謡を書き始め、西條八十に「若き童謡詩人の巨星」と称賛されます。
- 23歳で結婚しましたが、文学に理解のない夫から詩作や手紙を書くことさえも禁じられます。さらには病気、離婚と苦しみが続きます。
- 1930 (昭和5) 年 最愛の娘を奪われないために、抗議の自殺の道を選び、26歳の若さでこの世を去ってしまいました。代表作「私と小鳥と鈴と」「星とたんぼぼ」「大漁」など。



市民グループ活動のパネル展示



市民スタッフの自己紹介

時代は変わっても、金子みすゞのように夫から不当に虐げられる女性たちがいます。不条理な現実を怒りを覚え、声をあげたい。ひとつひとつの「いのち」が輝ける世の中を切に願います。
(Sashimi mom.)



『きりぎりすの山登り』は、つらい時期に書かれた異色の詩。彼女の「願い」と「絶望」が交錯して、身につまされます。

きりぎりすの山登り

金子みすゞ 作

きりぎりすちゃん、山のぼり、
朝からとうから、山登り。
ヤア、ピントコ、ドッコイ、ピントコ、ナ。
山は朝日だ、野は朝露だ、
とても跳ねるぞ、元気だぞ。
ヤア、ピントコ、ドッコイ、ピントコ、ナ。
あの山、てっぺん、秋の空、
つめたたく触るぞ、この髪に。
ヤア、ピントコ、ドッコイ、ピントコ、ナ。
一跳ね、跳ねれば、昨夜見た、
お星のとこへも、行かれるぞ。
ヤア、ピントコ、ドッコイ、ピントコ、ナ。
お日さま、遠いぞ、さあむらじや、
あの山、あの山、まだとおい。
ヤア、ピントコ、ドッコイ、ピントコ、ナ。
見たよなこの花、白桔梗、
昨夜のお宿だ、おつや、おや。
ヤア、ドッコイ、つかれた、つかれた、ナ。
山は月夜だ、野は夜露、
露でもので、寝ようかな。
アア、アア、あくびだ、ねむたい、ナ。

生駒市女性センターからのインフォメーション

ライフスタイル セミナー

パートナーと笑顔で支え合いたい! いきいきと自分らしく生きたい!そんなあなたを応援します。

- 【費用】 無料
- 【講師】 ● 関西大学人権問題研究室 研究員 源 淳子さん
● 日本メンタルフィットネス協会 心理カウンセラー 下口 雄山さん
● 護心道昌武館 館長 中井 靖子さん
- 【定員】 50名程度 (抽選制)
- 【対象】 生駒市在住、在勤、在学の方

【託児】 満2歳以上就学前の幼児を対象に託児を行います。(おやつ代等として一人一回100円が必要)

【申込方法】 往復はがきに住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号(FAX番号)、受講希望理由、託児希望者は子どもの名前(ふりがな)と年齢を書いて、**10月23日(月)**までに女性センター「ライフスタイル セミナー」係へ申し込んでください。FAXでも可。

回	とき	ところ	テーマ
1	11月 2日(木) 9:30~11:30	生駒セイセイビル 401会議室	女と男のいい関係ってどんなの? ~パートナーとのこれからを考える~
2	11月 9日(木) 9:30~11:30		からだと心のリラックス ~心豊かに生きるために~
3	11月16日(木) 13:30~15:30	中央公民館 小ホール	安心して暮らすために ~自分で自分の身を守る(護身術)~





この情報誌の編集には、平成17年度「情報発信スキル養成講座」の受講者が中心に集まった会「mom.mom」に参加していただいています。

まちがいさがしクイズ (2枚の絵で違う箇所が7つあります。)



①氏名・住所・年齢 ②一番印象に残ったページとその感想 ③今後扱ってほしいテーマや「生駒のきらりさん」に紹介したい方などを記入して、ハガキかメールにて11月末日必着で女性青少年課までお送りください。抽選で5名様に粗品を進呈します。

編集後記

 Nora mom.	今回は私用で忙しく、ほとんど誌面に携われませんでした。しかし私にできそうなことを探しては知らせてくれて、参加の意義を教えてくださいました。仲間って頼もしい!
 Kero mom.	今回の編集は、まさに金子みすゞのこの言葉「みんなちがってみんないい」を実感するものでした。それぞれのよさを認めて、自分らしく生きたい。私もそう思います。
 Sashimi mom.	アンケートって難しい! わかりやすく考えたつもりでも、人によって受け方はさまざま。いろいろなご意見に触発されて、「先入観で物事を判断しない」ことを肝に銘じます。
 Saru mom.	アナログな遊びの良さを再確認し、子どもと一緒に折り紙やあやとりをする時間が増えました。時間がかかっても、完成した気持ちを共有できたときはうれしい!

- 生駒市男女共同参画情報誌・第19号
- 発行 = 生駒市・生駒市教育委員会
- 編集 = 生駒市教育委員会事務局女性青少年課
(〒630-0288 生駒市東新町8-38 ☎0743-74-1111内線673)
e-mail (jyosei@city.ikoma.lg.jp)
- 発行日 = 平成18年(2006年)10月

(この情報誌は再生紙を使用しています)